

聴覚障害者支援パンフレット

見た目ではわからない「聴覚障害」。

地域のなかでは、聞こえないために周囲とコミュニケーションが取りにくく、孤立してしまいがちです。聴覚障害者が地域社会で安心して皆さんとつながり、助け合い、ともに暮らせるように、皆さんに知っていただきたいことをこのパンフレットにまとめました。

こんなことに困っています

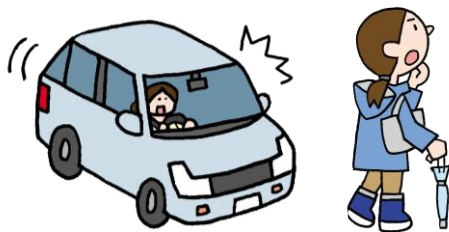
『外見では気づいてもらえない』

耳が聞こえない・聞こえにくいことは、外見からはわかりにくいので、困っていても、気づいてもらえず、孤立してしまいがちになります。また、あいさつや呼ばれた時に気づかないことがあります。



『周囲の状況が分からない』

自動車のクラクションやサイレンなどが聞こえず、路上で危険な目にあうことがあります。また、災害時などの状況判断が遅れることがあります。



『音声による放送に気づかない』

防災無線や商業施設、ラジオなどの放送による案内が聞こえません。その為、避難など一斉に行動する際に遅れがちになります。



『存在に気づいてもらえない』

呼びかけの音が聞こえず、また声を出すことが苦手な人もいますので、自分の存在を知らせることができません。



おしえてカブトン

声をかける際のポイント！



聴覚障害者は、背後から声をかけても聞こえません。

- ①軽く肩をたたき、
- ②顔を合わせてから、コミュニケーションをとりましょう！

主なコミュニケーションの方法

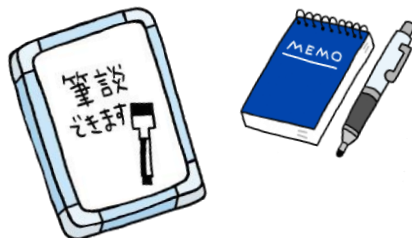
『手話』

手の動きのほか、目・眉の動きにも意味があります。日本語や英語のように独自の文法体系のある言語です。手話ができる聴覚障害者は、全体の約20%といわれています。



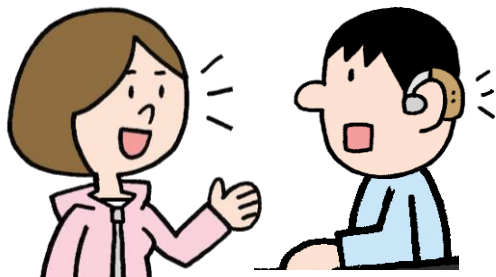
『筆談』

紙に書いたり、スマートフォンに入力するなど、文字で伝える方法です。簡潔にわかりやすく、がポイントです。「いつ」「どこで」などを箇条書きで書くと伝わりやすいです。



『読話と口話』

口のかたちを読み取ります。口元が見えるように、相手に顔を向けてはっきりと、少しゆっくり話します。



『身振り手振り』

方向や対象物を指差したり、からだの動きやジェスチャーを使って伝えます。表情をつけるとわかりやすくなります。



新しいつながり方もあります

●電話リレーサービス

通訳オペレーターが、手話・文字と音声とを電話で双方向につなぐサービスです。

問い合わせ先：一般財団法人日本財団電話リレーサービス



電話リレーサービスHP

おしえてカブトン

筆談の「コツ」



《質問は答えやすいように》

×どこも痛くないですか？

○痛いですか？ どこ？

《丁寧に書くより、必要なことを簡潔に》

×まもなく13時に食事が配給されます

○13時に食事が来ます

《簡単な漢字を使用する》

×きゅうすいしゃが15じにくるようです

○給水車、15時に来ます

音声認証や手書き
ができるアプリも
あります♪

聴覚障害者指さし会話シート
私は耳が聞こえません。協力をお願いします。

●災害・緊急時

火事	洪水	救急車	けが
地震	土砂崩れ	避難	病気

●尋ねる・お願い

どこ	いつ	おねがい します
だれ	どうやって	してくだ さい
なぜ	なに	手話ができる 人はいますか

●避難所で

トイレ	配給
衛生 用品	水
食べ物	薬



筆談スペース

ラミネート加工して水性ペンで書いたり
布で拭いて消したりしてご使用ください